

秋の叙勲・褒章

長年にわたる活動の功績・功勞により、次の皆さんが大臣表彰を受けました
■厚生労働大臣表彰（社会福祉功勞者）… 馬内弥太郎さん、三河玲子さん

このほど令和3年秋の叙勲・褒章が発表されました。市内の受章者の皆さんを紹介します。

消防功勞 瑞宝単光章

たこないかずのり
田子内一徳さん
(大川目・70歳)



昭和51年に消防団員に任命されて以来、44年の永きにわたり、健全な社会を守るため、後輩団員の指導や火災予防に献身的に取り組みました。平成20年からは分団長、平成28年から6年間は消防団副団長を務め、火災予防指導に貢献しました。受章にあたり「消防団で思い出されるのは何度も繰り返し練習した操法訓練。また地域のために少しでも貢献したいとの思いから、防災マップの作製、地区の想定される独自の避難訓練を実施してきました。次の世代も消防精神を忘れずに続けてほしいです」と話しました。

消防功勞 瑞宝単光章

こまざわ ゆきお
駒澤雪男さん
(侍浜町・78歳)



昭和57年に消防団員に任命され、38年の永きにわたり、住民の安全な暮らしを守るため、団員の指導育成や、地域の防火活動に取り組みました。平成20年からは分団長、平成31年から3年間は消防団副団長を務め後進の育成強化に尽力しました。受章にあたり「地域のためにという思いで努めてきました。災害対応もさることながら、火災予防点検などの防災意識の醸成が重要であると感じ、力を注いできました。仲間や後輩にも恵まれ、続けることができ、支えてくれた皆さんに、お礼を申し上げます」と感謝の言葉を述べました。

地方自治功勞 旭日双光章

しみず きょういち
清水恭一さん
(山形町・70歳)



平成11年に山形村長に初当選。平成16年の久慈市と合併後は市長職務執行官や特別参与を務め、両市町村発展に多大な貢献をしました。また、平成23年からは県議会議員を務め、国道281号線の整備など多大な成果を上げました。受章にあたり「このような章をいただき、皆さんに感謝申し上げます。自然体験学習や教育旅行を始めた際に人とのつながりの大切さを強く感じたことが印象に残っています。たくさん『ふるさとの宝』に気が付き、磨きをかけて発信していただきたいと思います」とエールを送りました。

地方自治功勞 旭日双光章

くわた てつお
桑田鉄男さん
(侍浜町・74歳)



平成11年に久慈市議会議員に初当選。以来、令和元年8月まで5期20年にわたり市議会議員を務め、平成27年から令和元年までは市議会副議長として久慈市議会の運営に尽力しました。受章にあたり「市民のために何ができるかを考えながら進めてきました。その中で議会改革の必要性を感じ、議会が市民と協働する『かだって会議』など、さまざまな条例改正を積極的に行ってきました。皆さんの協力のおかげで、ここまでやり遂げることができました。すべての人に感謝したいです」と話しました。

社会奉仕 緑綬褒章 久喜海づくり少年団



1年生の時から海を守るための清掃は当たり前だと思って活動してきました。今回緑綬褒章をいただけると聞いて、驚きました。僕たちが続けている活動は、すごいことだと再認識することができました。これからも海づくり少年団の活動を続けていってほしいし、僕自身も海を守る活動を考えていきたいです。代表久喜小学校6年仲村将汰

消防功勞 瑞宝単光章

なついのりお
夏井則雄さん
(夏井町・73歳)



昭和52年に消防団員に任命され、42年の永きにわたり、消防の使命を深く認識し地域の安全のため、消防活動に献身的に取り組みました。平成17年には消防団副分団長を務め、火災予防活動や後進の育成に取り組みました。受章にあたり「団員生活で印象に残っていることは、久慈大火です。笹が燃える音が大きく、自分がいる場所がわからなくなるほどでしたが、微力ながら消火の一端を担うことができました。今の若い人たちには、消防団の誇りをもって、活動してほしいです」と熱く語りました。

海上保安功勞 瑞宝単光章

なかむら こうへい
中村好平さん
(宇部町・65歳)



昭和50年に海上保安学校へ入校。42年間にわたり巡視船や警備救難の業務を務め、海上の安全及び治安の確保に貢献しました。受章にあたり「人と違う特技をと思いロシア語を習得。外国船の臨検では、語学のほか魚の種類や漁法など、幼少のころから海で親の手伝いをしたことも、生かされました。思い出に残っているのは、台風のなか現場に向かったこと。波に打ち付けられ舵を取るのが大変でした。ここまで続けてこられたのは、家族や支えてくれた人たちのおかげです」と感謝の気持ちを述べました。

消防功勞 瑞宝双光章

にしかわ かずひろ
西川一弘さん
(夏井町・67歳)



昭和48年に久慈地区広域行政事務組合消防本部に採用され、42年の永きにわたり消防行政の発展に努めました。平成23年から平成27年まで久慈消防署長を務め、豊富な経験を生かし、後進に積極的に指導や助言を行い、住民の安全に努めました。受章にあたり「久慈大火や東日本大震災が印象に残っています。人命第一で、災害をいかに防ぐかに尽力してきました。諸先輩方の指導を受け、自分が経験したことや学んだことを、後輩に伝えてきたつもりです。後輩には、向上心を持って、次に向かってほしいです」と話しました。